

## 第 2 回第 2 期高知県教育振興基本計画推進会議（11/9）の主な意見

## 【教科の「タテ持ち」の拡充による「チーム学校」の構築】

- 次年度から県内の同一教科で複数教員を配置できる規模の中学校全てで「タテ持ち」を導入してはどうか。その成果と課題等を検証し、各学校へ発信することにより「タテ持ち」の導入がさらに促進されるのではないか。

## 【放課後等における学習支援の充実】

- 各学校や個々の子どもの実情に応じて「量の充実」と「質の向上」に分けて取り組んでいく必要がある。
- 学習の質を向上し、個々の子どもたちの状況に応じたきめ細かい学習支援を行うためには、個々の子どもの状況を把握している学校窓口と関係機関等との連携が必要である。

## 【親育ち支援の充実・強化】

- 困難を抱えている親は、まずは親を支えてほしいという思いがある。「親育ち」と聞くと「まずは親が育たなくてはいけない」と感じてしまい参加しづらくなってしまふ。そうした親に対しては、「親をサポートします」というメッセージを伝えることが大切。
- 個別の支援が必要な子どもや家庭に対して支援する家庭支援推進加配保育士は、個々の育ちの情報を持っている保健師と連携して支援に取り組んでほしい。
- 親同士の繋がりを深めていくためには、PTA活動の活性化が重要ではないか。保幼小中高でのPTA活動を通じて、就学前から保護者同士が繋がることにより、不安や悩みを抱えた時に気軽に相談できる親同士の繋がりが保幼小中高と継続していくことが大切。

## 【若年教員の資質・指導力の向上】

- 若年教員の資質・指導力の向上にあたっては、各校でのOJTが重要であり、OJTのスーパーバイズ、コンサルテーションが必要。
- 初任者同士の学び（ピアインストラクション）も必要ではないか。
- 各学校での研究会活動が活性化されれば、各学校でのOJTの一助になるのではないか。

## 【教員の多忙化の解消による授業研究や子どもに向き合う時間の確保】

- チーム学校の取り組みにより、教員が発達障害や課題のある子どもをSCやSSWに繋げることにはできているが、繋いで終わりになっている。SCやSSWが、教員の力量向上を支援することにより、教員が自身の力量向上を実感し、多忙感ではなく「やればできる」という良いサイクルにもっていくことが重要。
- 部活動顧問の負担軽減については、技術的な指導面でのサポートだけでなく、部活動の活動計画などのマネジメント面でのサポートが必要である。
- 教員の服務規律を見直し、外部人材を活用した部活動引率の在り方を検討することでかなりの負担軽減につながるのではないか。
- 学校現場では、慣例等により必要性のないものを続けている学校もあるので、学校長が積極的にスクラップ&ビルドに取り組んでいく必要がある。教育委員会においても学校で実施する事業については、学校の負担にならないように複数の事業を1つにまとめるなどの工夫をお願いしたい。

### 【小・中学校における生徒指導上の諸問題（暴力行為、不登校）への対応】

- 生徒指導上の諸問題への対応の取り組みについては、2つの視点が重要である。1つは段階的な支援（①市町村レベル、②専門家レベル、③県レベル）、次に分析に基づいた予防だけでなく学校復帰といった回復の視点が重要である。
- 予防的な観点から乳幼児期からの取り組みを考えていくことも必要である。
- 問題行動等が多発する学校に長く勤務する教員に対しては、アンガーマネジメント研修など特別なプログラムを受講する機会を提供するなど、教員をサポートする仕組みも必要ではないか。
- 不登校や暴力行為などの問題行動の背景には環境的な要因がある場合が多く、子どもだけでなく親子ケアとして対応しなくてはいけない場合がある。発達障害の子どもへの親への支援にあたっては、親も遺伝的に発達障害等の傾向を持っていることもあるので、発達障害も含めた特別な支援が必要である。

### 【幼児教育の充実の加速化】

- 次期学習指導要領に向けての中間取りまとめにおいて、身につけるべき3つの資質能力が示され、幼児教育から高校教育までの学びの連続性の重要性が示されている。こうしたことから保幼少の接続などについては、幼児教育の充実だけでなく、学校間の連携や学びの連続性など、もう少し大きな柱のもとで検討すべきではないか。

### 【スポーツ競技力の向上】

- 本県では、ジュニア世代において成果を上げているが、国体は最下位という状況であり、競技力向上を長いスパンで考えて取り組んでいく必要がある。また、指導者の養成と施設整備が必要である。
- 子どもたちの運動不足による運動能力の低下が大きな課題となっている。国ではアクティブチャイルドプログラムとして子どもが1日60分運動する取り組みを行っている。放課後の活動などで遊びを通じて体を動かすことが大事であり、その際には地域のスポーツ少年団や総合型との連携も必要である。

### 【その他】

- 欠食児童・生徒への対応における、学校支援地域本部等事業を活用した「朝食づくり」の取組については、①頻度を上げること（せめて週1回程度）、②子ども自身が朝食を作ること、③不登校対策とリンクすることが重要。
- ユニバーサルデザインは、授業づくりをより全ての子どもにわかる・できるようにするための指針であり、高知県授業づくりBasicガイドブックと関連づけて研修等を実施してほしい。
- 健康教育の充実については、LGBTの理解を入れてほしい。
- 発達障害など対人関係に難のある生徒に社会性を身につけさせるための教育として、高等学校での通級を検討してほしい。高等学校の通級は、中高連携にも関係しており、中学校において通級により受けていた個別のライフサポートが高等学校でも保障されることは重要である。
- 民間企業では、新入社員は入社して半年すれば一般社員と同じ扱いになるが、教員は研修等も含めて守らすぎていると感じる。小さい頃から守られすぎた環境で育った教員の中には、精神的に弱く、教員としての仕事が全うできずに孤立し、心が折れる者もいる。保護者の願いは強い教員を育ててほしいということである。
- 現代はストレス社会であり、温かい人と人との繋がりが持たなくなっており、様々な問題が起きている。これまで日常生活の中で自然と育まれてきた人を思いやる気持ちや協調性などが、育まれにくくなっており、体験活動等などにより育んでいかなければいけない。